

大坂蔵屋敷の考古学的調査

2023.3.11

東京大学埋蔵文化財調査室 調査研究プロジェクト

大名屋敷跡遺跡研究の新潮流

宮本 康治（大阪市教育委員会）

1 はじめに

大坂における大名屋敷は豊臣の時代には上町台地上が主だが、徳川期になり台地をおりた川沿いに設けられるようになる。大坂は米をはじめとする市場をかかえ物資の集散地であり、各藩の産品を保管、市場で換金し必要な物資を調達するなどの役割が重視されたことにもよるとみられている。その数は幕末期には130あまり、現在の大阪市北区中之島から堂島にかけて多くの屋敷が集まっていたといわれる。蔵が立ち並ぶ様子は近世都市大坂の象徴的な風景の一つでもあった。

蔵屋敷の発掘調査は1990年の佐賀藩蔵屋敷の船入部分の調査に始まり、その調査例は地点で20を越えている。調査では大規模な屋敷に加え、小規模なものなど多様な状況が知られるようになってきている。今回はそうした状況の一端を紹介する。

2 発掘調査の事例から

(1) 広島藩蔵屋敷跡の調査から ～大規模屋敷の例

屋敷の大半を調査することのできている数少ない例で、大規模な屋敷の状況を示すものである。隣接する久留米藩もあわせ中之島での開発が始まる15・16世紀にはじまり、幕末・近代にかけての変遷が明かになってきている。

幕末期の遺構面IVc期では広範囲に遺構が確認されており状況を見ておく。川に近い側に船入SF2001、周囲に蔵跡があり、南側に御殿建物SB2005ほか、敷地外周側に長屋建物等が配置されていた。「芸州大坂御屋敷全図」など絵図が知られていたが、発掘遺構と対応する状況も確認されている。

先行する時期の状況についても調査されており、17世紀代とみられるIII期では断片的ではあるが建物跡や、堀状の遺構SX4001等が確認されている。これは船入に類する役割をもっていたと推測された。さらにそれらの下位では耕作地となっていた状況が観察されている。

(2) 堂島地域：大村藩・長岡藩ほかの屋敷跡の調査から ～小規模屋敷の例1

堂島地域では17世紀後葉の河村瑞賢による河川改修の後に開発が本格化する。その一角での調査例では、いったん陶器の窯が営まれるなどした後に屋敷地となった過程が明らかにされている。

蔵屋敷の遺構の配置が判明しているIV期：18～19世紀代には、敷地の西側で蔵とみられる遺構SB204が、東側に礎石建物SB203が位置していた。こうした建物配置は18世紀初めにこの地点で屋敷が形成された時点から同様であったと推定され、幅15間半ほどの屋敷地が倉庫と居宅等で構成されている。地図との検討から大村藩など入れ替わりがあったことも判明した。

(3) 中之島地域：矢島藩ほかの屋敷跡の調査から ～小規模屋敷の例2

中之島西部では蔵が屋敷の大半を占めると推測される例があった。付近は17世紀代に開発が本格化し、18世紀代に蔵屋敷が形成されている。18世紀末から幕末期の遺構面（II期後半）ではSB3a01～

06などの遺構があって、調査範囲内は蔵で占められていた。地図等とも併せた検討から、居宅などのスペースがあまりなく、敷地の大半の部分を蔵が占めることが推測された。該当する藩としては秋田の矢島藩、次いで鹿島藩、肥後藩等があげられる。

これらの発掘調査から、規模の大小や屋敷の構成要素において幅があること、多くは改修を経ており変化していくこと等が明らかになってきた。また文献・地図等ともあわせての検討から、長期間固定して屋敷を営む場合もある一方で、移転や入れ替わり等もあることが知られるようになってきている。

また以上の他に蔵屋敷調査の嚆矢となった佐賀藩の調査をはじめ、萩藩や高松藩、鳥取藩、その他小藩の屋敷調査も加わってきており、徐々に検討の材料が増加しつつある。

3 他分野の研究から

蔵屋敷をめぐるは古くは経済史等からの研究が積み重ねられていたが、それらに加え地図や絵図等の研究、そして考古学的な側面など、多様なアプローチが見られるようになってきている。地図や文献からの検討では居住する藩が入れ替わる例など変化も激しいことが指摘されている（豆谷 2001 ほか）。また主に絵図をもとにした建築史的な側面からの検討も進められており、「西国型」「東国型」などの類型化も提案されている（植松 2015 ほか）。

4 今後に向けて

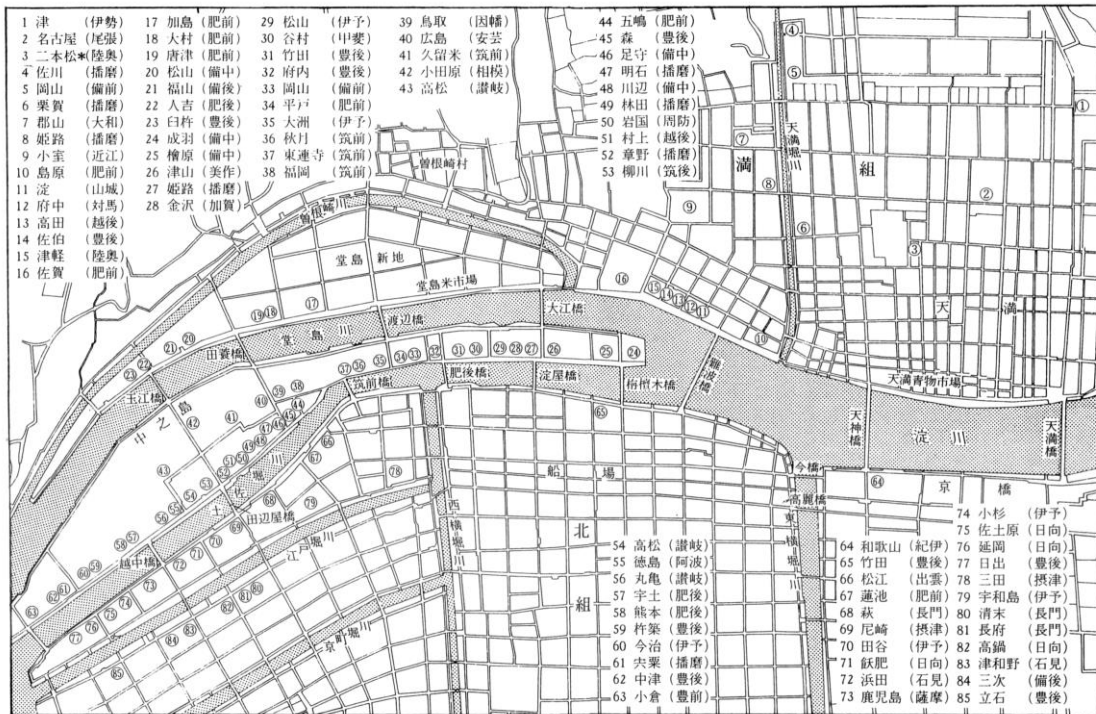
蔵屋敷跡の位置する地域においては再開発もあって調査例が少しずつではあるが増加しつつある。蔵屋敷をめぐるさまざまな分野から関心が寄せられつつあり、それらとあわせての進展が期待される。

<主要引用・参考文献>

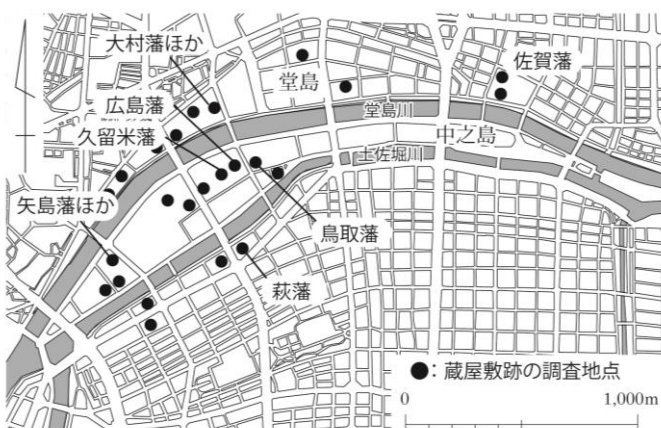
- 植松清志 2015『大坂蔵屋敷の建築史的研究』、思文閣出版
- 大阪市文化財協会 1991『旧佐賀藩大坂蔵屋敷船入遺構調査報告』
- 大阪市文化財協会 1999『堂島蔵屋敷跡』
- 大阪市文化財協会 2003・2004・2020『広島藩大坂蔵屋敷跡』Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 大阪市文化財協会 2022『久留米藩蔵屋敷跡発掘調査報告』
- 大澤研一・古市晃 2000「堂島の蔵屋敷 藩名わかりました！」『葦火』86
- 大阪文化財研究所 2012『中之島蔵屋敷跡発掘調査報告』
- 大阪文化財研究所 2015『中之島蔵屋敷跡発掘調査報告』Ⅱ
- 藤本篤 1989「天下の台所」（財）大阪都市協会編『まちに住まう』、平凡社
- 新修大阪市史編纂委員会 1989『新修大阪市史 3』
- 積山洋・小倉徹也 2000「鳥取藩大坂屋敷跡の発掘調査」『葦火』88
- 谷直樹ほか 2017、『大坂蔵屋敷 天下の台所はここにはじまる』大阪市立住まいのミュージアム図録
- 松本啓子 2001「萩藩大坂蔵屋敷の足跡を追う」『葦火』90
- 豆谷浩之 2001「蔵屋敷の配置と移転に関する基礎的考察」『大阪市文化財協会研究紀要』4
- 同 2015「大坂蔵屋敷の所有と移転に関するノート」『大阪歴史博物館研究紀要』13
- 吉田悠歩・市川創 2014「蔵屋敷の蔵—中・小藩の場合—」『葦火』172



2-1 撰津名所図会「藏屋敷」



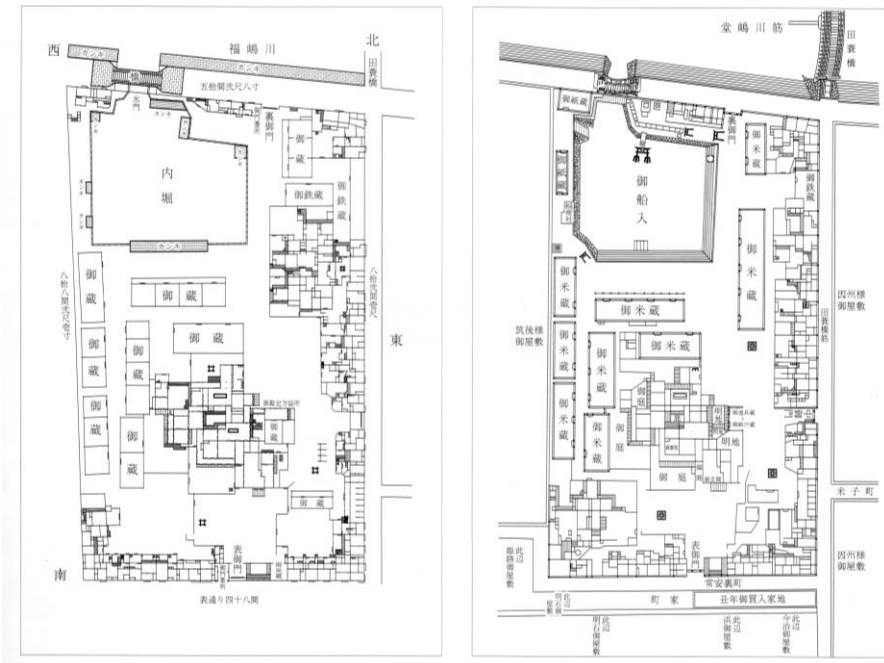
2-2 藏屋敷の分布



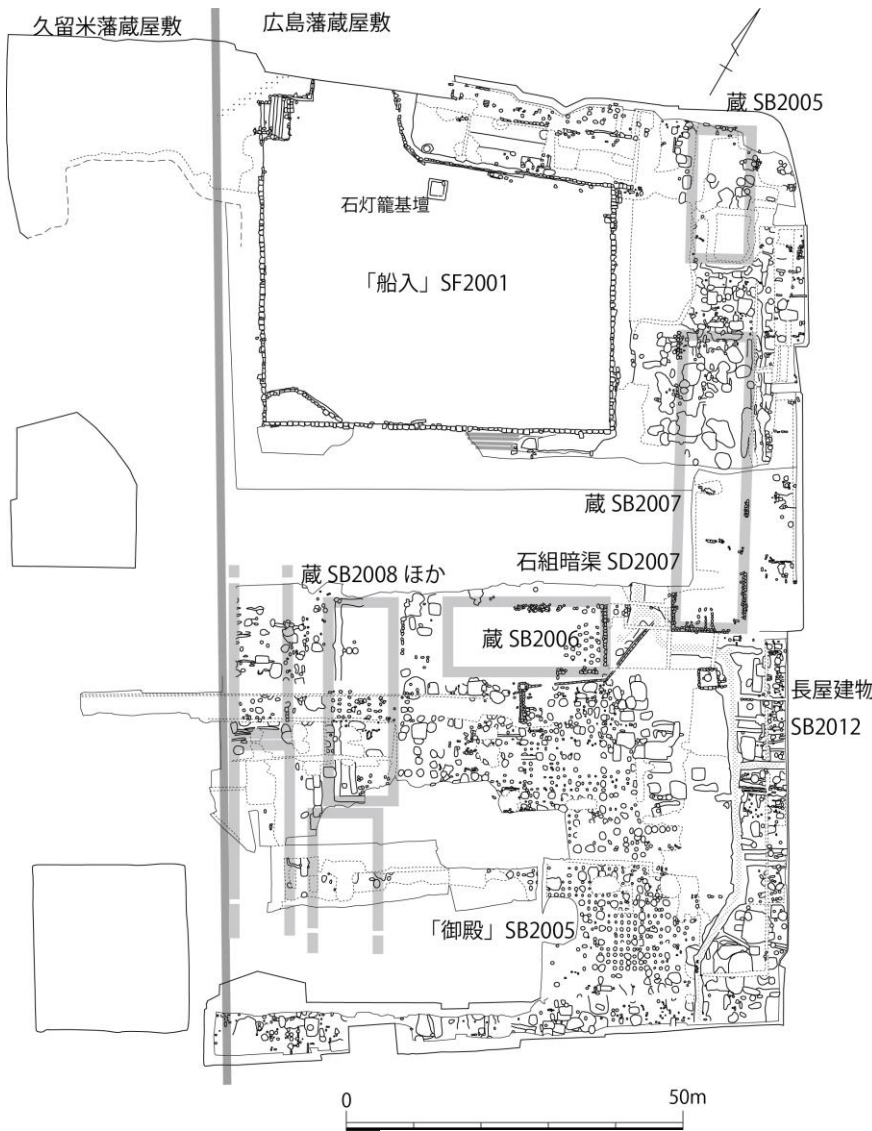
2-3 藏屋敷の主な調査地点

2-4 佐賀藩藏屋敷の船入調査

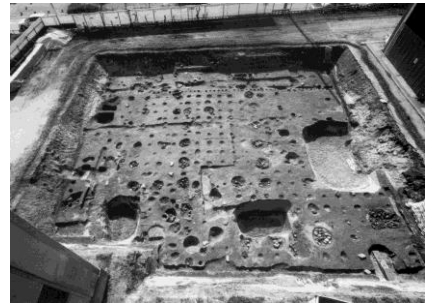
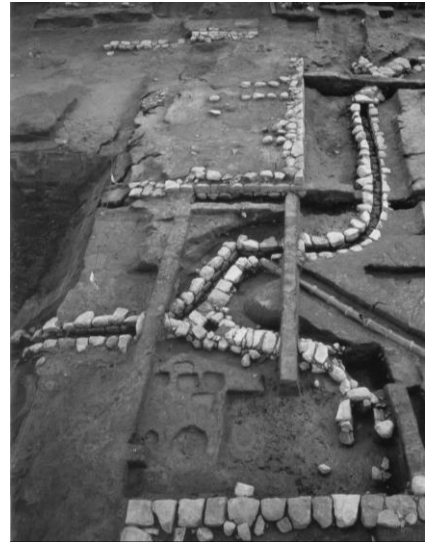
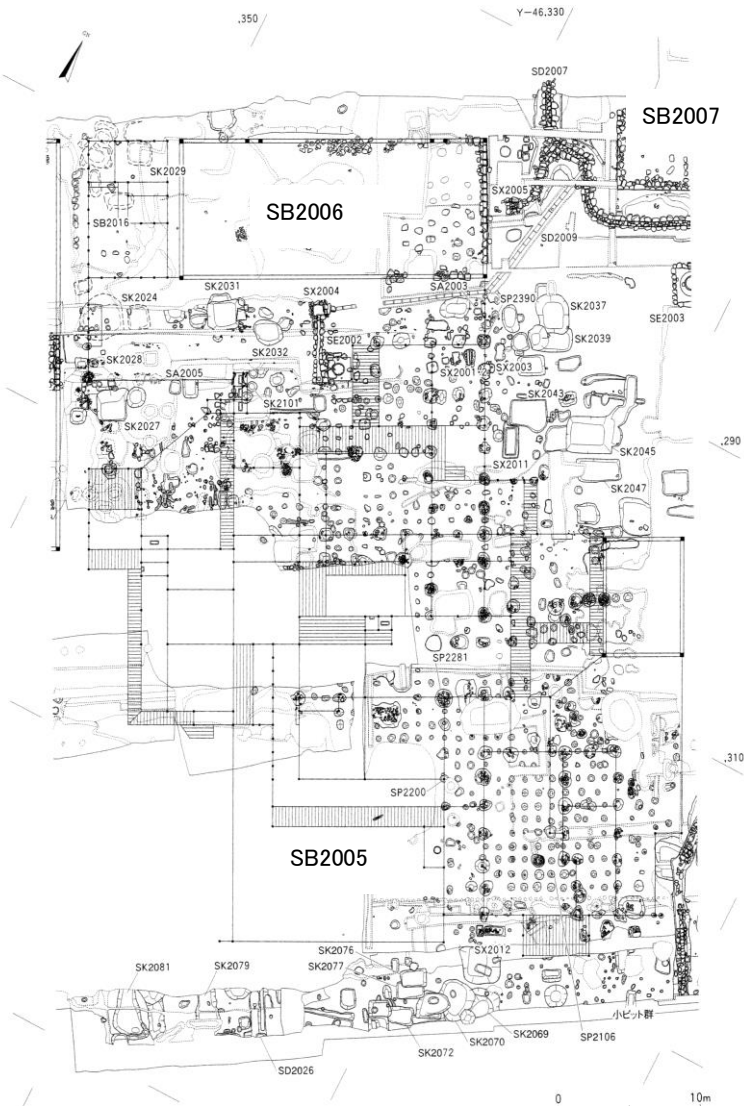




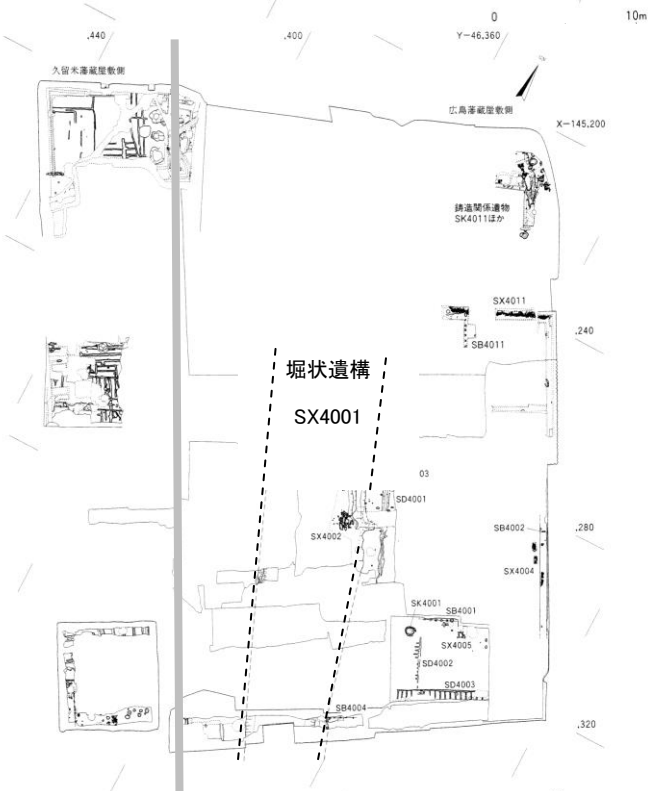
2-5 広島藩藏屋敷の2種の絵図
 左：大坂中ノ島御屋敷絵図
 右：芸州大坂御屋敷全図



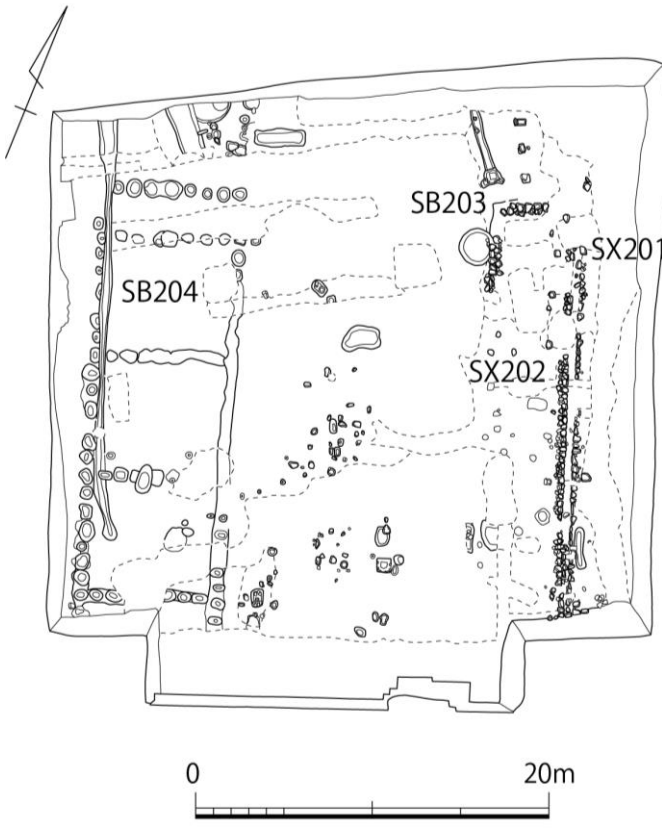
2-6 広島藩藏屋敷の調査 (IVc 期 幕末の状況)



3-1 広島藩蔵屋敷 御殿部分の状況

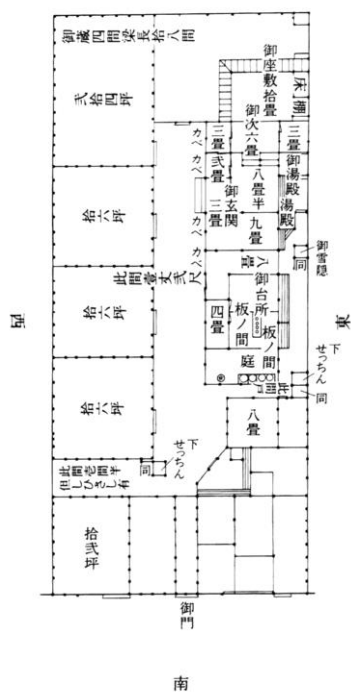


3-2 広島藩蔵屋敷の調査 (Ⅲ期 17世紀代の状況)



3-3 堂島地域の調査から (IV期の状況)

大坂新地堂嶋四丁目御蔵屋敷古指図ひかへ



上田家蔵屋敷平面図 (原図は広島県三原市立図書館所蔵)

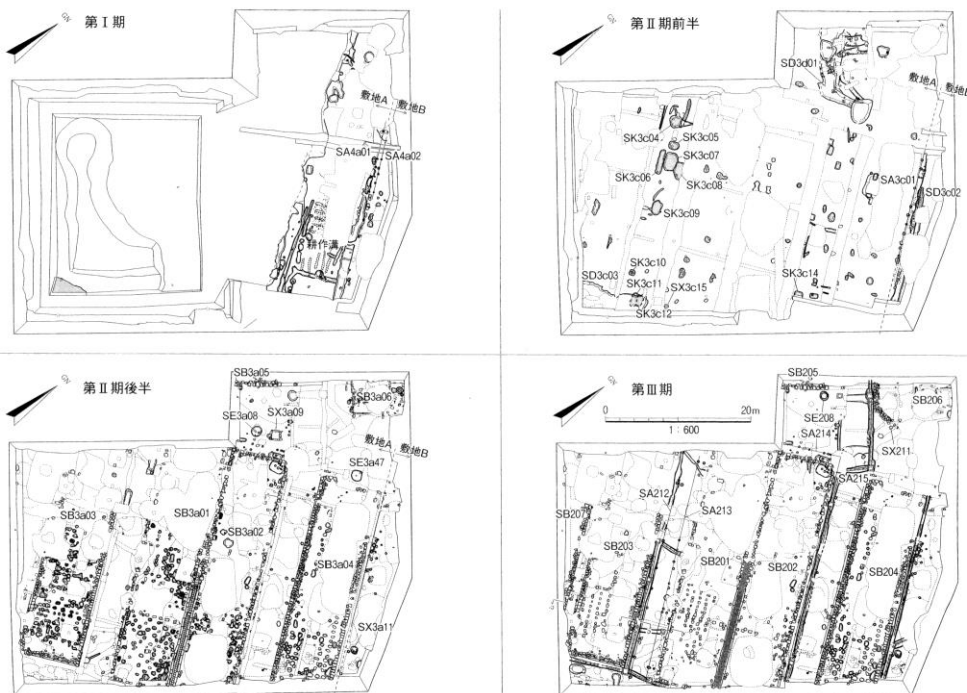
3-4 上田家屋敷の平面図から



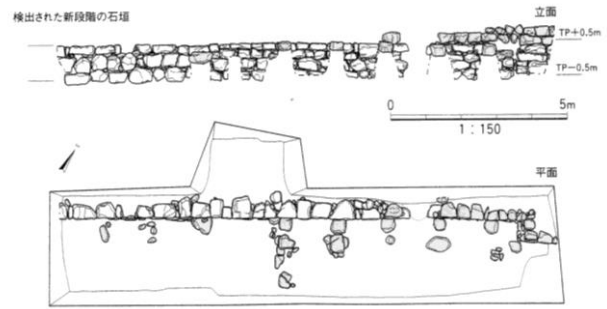
3-5 堂島地域調査での窯跡の検出



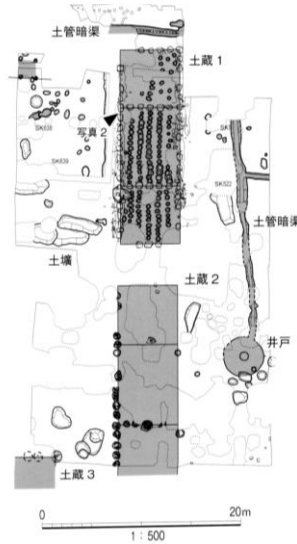
4-1 中之島地域の調査から 矢島藩ほか
(第Ⅱ期後半 蔵の検出状況)



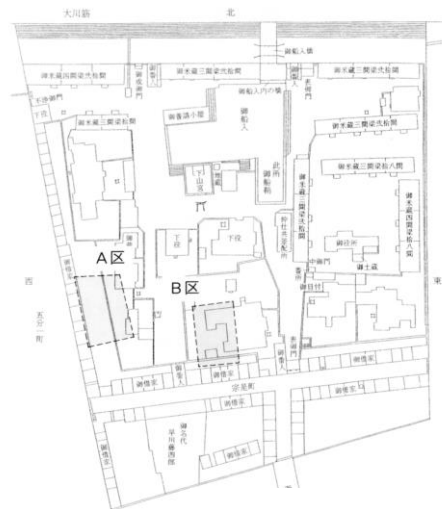
4-2 中之島地域の
調査から
矢島藩ほか
(各時期の状況)



4-3 萩藩蔵屋敷の調査



4-4 高松藩蔵屋敷の調査



4-5 鳥取藩蔵屋敷の調査

<挿図等出典>

2-2 : 大阪市 1989、2-4 : 大阪市文化財協会 1991、2-5・6 : 大阪市文化財協会 2003・2004、3-1・2-3-3~5 : 大阪市文化財協会 1999、4-1~2 : 大阪文化財研究所 2015、4-3 : 松本 2001、4-4 : 大阪文化財研究所 2012、4-5 : 積山・小倉 2000 各文献掲載の図・図版よりそれぞれ引用・改変